

平成23年度・名古屋工業会大阪支部「春季歴史探訪の会」開催報告

日 時：平成23年度5月28日(土) 午前10時～午後5時

行 先：大山崎周辺の歴史・美術探訪とサントリービール京都工場見学

参加者：38名(内、女性8名)

内 容：

平成23年5月28日(土)総勢35名が、JR「山崎」、阪急「大山崎」駅に午前10時に集合。当日は、前日からの雨が少し残っており、山道は急峻で危険なため、天王山登山は断念しました。集合地では「大山崎ふるさとガイドの会」木村様他2名のガイドさんの紹介があり、先ず駅前近くの「離宮八幡宮」に参詣。平安時代の初めの創建といわれ、「本邦製油発祥地」として「自治都市大山崎」の中心でもあった由緒ある神社で、荏胡麻(えごま)油を絞り、全国に売り歩く元締めとして富を築いたといわれています。



今もその名残で全国の製油関係者が「油祖離宮八幡宮崇敬会」を組織しており「油の神様」としてあがめられています。この後、京都への関所跡に建ったと言われる「関大明神」や「山崎宗鑑句碑」を訪ねてから「大山崎町歴史資料館」を訪れました。館の中にはここ大山崎の「妙喜庵」にある利休が唯一遺したとされる国宝の茶室「待庵」と寸分たがわぬコピーが再現展示されており、そのわずかに二畳という極小室内空間に利休の非凡さが窺われました。そのあと、アサヒビール大山崎山荘美術館行きのシャトルバスに乗り、先ずは少し山道を歩き、「宝積寺」に向いました。ここは打ち出の小槌の一寸法師伝説で有名な上、文化財の多いお寺で、本堂でご本尊の重文・十一面観音菩薩立像を拝し、閻魔堂では同じく重文の閻魔王像や眷属像四体の迫力に一同圧倒され、しばし神妙な面持ちでガイド氏の説明に聞き入りました。お昼はお寺の庫裏をお借りして済ませ、隣の「アサヒビール大山崎山荘美術館」に移動。

この美術館は実業家・加賀正太郎によって大正から昭和にかけて建てられた本格的な英国・チューダー様式の建物で、平成に入って荒廃していたものをアサヒビールが買いとって修復、1996年に美術館として発足したもので、本館の建物自体がすでに美術品の感があります。新館は安藤忠雄氏の設計により「地中の宝石箱」と呼ばれ、山の傾斜を生かした地下室構造で、モネの睡蓮などが展示されています。我々は理系なので、学芸員の方には特別にお願いして建物を主体に小1時間にわたって説明頂いた後、現在は喫茶室となっている2階の広いテラスでお茶を飲みながら、眼下の三川合流の雄大な景色を楽しみました。山荘を後にして、JR「山崎」駅より1駅京都よりにある「サントリー京都ビール工場」の見学を致しました。

見学では、林立する大麦の発酵釜の大きさにびっくりし、また工場全体の清潔さに驚いた次第です。見学後のお楽しみの試飲では、改めて手間をかけて作られた出来立ての「ザ・プレミアム・モルツ」のうまさに感動しながら咽喉を潤し、ほろ酔い気分で帰途に着きました。

以上、藤原記

